

2017/4/6

(日々雑感 71)



女でも男気のあるヤツが好きです。

「分かりました。そちらがそこまでしてくださるなら、わたしも及ばずながら一肌脱がせていただきますわ」

そんなことを言うヤツ。

男気と言ってわかりにくければ、女の誠意とも誠とも。

あれこれした挙げ句に「ならばわたしもお返しに」とはならず「ああ楽ちん」となり「しめしめ、こいつは使えるわ」と進み、ついには「当たり前よね」となる人が多い昨今、それが外国人であろうと、人妻で子持ちであろうと、30才近くも年が離れた自分の子供のような歳の女であろうと、そういうヤツが好きです。

実は今日、二年ぶりに「そいつ」とばったり会いました。全く頭のどこにもそんな考えはなく、意識野にそのかけらすらない「予想だにしない」ような状態で、突然、偶然、啞然とばかりに大型スーパーのレジカウンター・ベルトの前で会ったのです。

「ああ！」と指さされ

「おお！」と指さし

そしてお互いにごくごく自然にハイタッチ。

「なんでおまえ、ここにおるん？」

「あんた、身体、治ったあるか？」

それからそれまで会わなかった間のことを、片言の日本語と中国語とスマホの映像と文字を使ってしばし歓談、映談、筆談。

そいつは二年前、地元のあまりキレイではない、中国残留孤児を親に持つ子がはじめた中華料理店で中国人スタッフとして料理人の旦那さんと夫婦で働いていた人妻さんでした。

旦那さんが塔さん。そいつが俊麗。

僕が身体を悪くしてお店に行けなくなったのですが、手術から戻ってきた一年前に久しぶりにお店を尋ねると、中国残留孤児の子の経営者である「総経理」から、

「ふたりは、独立するからと言って、店を辞めたよ。千葉の方で自前の店を出したらしい」

とのことでした。

そう言えばお店に行かなくなる少し前に、赤ちゃんが出来たからしばらく中国本土に戻ると言って、その年の夏からはお店に出なくなっていたのです。

「じゃこれ渡してよ」と旦那さんに、産まれた子が男でも女でもいいような安物ではありましたが、ベビー服を渡したりもしました。

そもそもそいつと何で仲良くなったかという「日本人、食べ物、文句言わない。あんたはつきり文句言う。あんまり日本人らしくない」と言われ「おまえもマナーが悪くて愛想のないの多い中国人の中ではなかなか珍しいヤツだ。我、我（ウォー、ウォー）あまり言わないのもいい」となって妙に気が合ったからです。

そして、店で酔っ払った日本人の客に「俺の女になれ！」と絡まれているのを、客が格下だと思っている店員で、しかも中国人の旦那が割って入ったのではもめそうなので、同じ日本人で客の自分が「遠路はるばる来邦せし、心細き客人になにをする！」と大義を立て割って入れれば同格だし、名分も立つだろうと楯になって庇ったのに対し、そのお返しにかどうかは分かりませんが「最恵国待遇」を受けるようになりました。もちろん同じ店の厨房で働いている旦那さんの目の「まん前」でのことで、旦那さんの塔さんも承知の上での夫婦共々のことです。

「あんた、身体悪い。奥さんいない。大丈夫か？ご飯たくさん食べる。栄養つける。それ、わたし、少し助ける。このお店の料理で。油、塩、も少なくするある」

立ち話でありあまり時間は無かったのですが、それでも、千葉には移ったが、日本語があまり出来ないのでお店が続けられず、店を閉めて、また前にいた僕の地元中華料理店に夫婦共々再雇用され、今はそこで働いているから「来てよ」とのことでした。

産まれた子供の写真も見せて貰いましたが、そいつ曰くまだ一歳半なのだそうですが、背が高く、幼児ながらも一目でそれと分かるほどのなかなかの「美人（みーれん）」でした。

そう言えば二年前、友達に「謎の中国人、美形おんなスパイが友達にいる」と冗談で言ったら、その友達は「ええね、ええね、ええやんか。なんぼでも引っかけりまっさかい、わてにもドンドン色仕掛で落としに来ておくんははれ、言うといてや」などと言っていました。

さすがその「美形おんなスパイ」の子供だけのことはありました。

「ところで千葉のどこにいたんだ？」と訊くと「わかんない。ここにいた」とスマホ画面に書いた漢字が「千葉」

「千葉」と書いたのに「ちば」とが読めない位なのだから、お店を閉じる運命になったのは必定だと思いました。

僕がお店に出入りしていた頃は、いろいろと日本語を教え、僕も片言の中国語を習っていたりしたので、そいつはそこそこ日本語が上手になっていたのですが、千葉に行ったらそういう日本人に巡り会わなかったせいか、折角習得した語技をそれ以上伸ばすことが出来ずに、廃れていったのかもしれない。

「おい、近々行くぞ」

「うん、来いよ。待ってる」

そして、お別れにまたハイタッチ。

多分気のせいだとは思いますが、ちょっと目が潤んでいる気がしないでもありませんでした。

こういう「情けをわきまえた」ヤツは、中国人だろうと人妻だろうと子持ちだろうと、大好きです。男でも女でもいい奴はいい奴なんだと思います。「お人柄」だと思います。

昨日は実にいい日でした。好日(ハオリー)。遠方に住んでおられる大先輩を尋ねて行って、即お役立ちのスゴネタ満載のお話を頂戴した満足感に浸っていた帰り道で、さらなる大きな満足が得られて、かなり、相当、十分すぎるくらいに「満腹好好」の一日でありました。さてもさてさて、昨日の凹みはどこへやら。朝の意気消沈が午後にはすっきり快晴。自分が何一つ変えようとしなくても、天の運びの方「が」、あるいは天の運びの方「で」変わることもあるようです。だからやっぱり面白い。何をやってもダメなときは、潮目が変わるまで待ってみるのも手かな?と思ったりもしています。

とにかくいろいろあるのが世の中らしいので、あれこれいろいろやるのが一番かな?と思っている今日この頃の自分です。

(写真はその中華料理店店内風景)